

新「共通特論Ⅱ」：臨床腫瘍学各論 緩和治療のアップデート

講義日：2024年1月20日（土）

講師：森田 達也（聖隷三方原病院 緩和支援療法科 副院長/腫瘍センター長/
治験管理室長）

要旨

本講では、痛みや呼吸困難など症状緩和治療のアップデートに関してパッチワーク的に述べる。扱うトピックは以下のとおりである。

- 1：痛み：弱オピオイドは必要か？、オピオイドの投与経路は何がいいか？、どのオピオイドがいいのか？、鎮痛補助薬は効くのか？
- 2：呼吸困難：呼吸困難にオピオイドは効くのか？、呼吸困難にステロイドはきくのか？、非薬物療法は有効か？
- 3：せん妄：抗精神病薬は有効か？
- 4：輸液：輸液の量はどれくらいがいいか？、食べれないことで患者・家族はどんな心理社会的影響があるか？、少量輸液にも価値はあるか？

全体を通して、個々の課題の結論のみならず、緩和治療領域において臨床エビデンスを解釈するうえでの注意や、医学治療があるからといって必ずしもそのまま個々の患者に適用すればいいのかという社会学・人類学の観点も含めたい。時間があれば、本講義の枠外の余談として、アドバンスケアプランニングに関する筆者の試験を数分だけ紹介する。